

自動運転車両のプラットフォームとアーキテクチャ戦略を促進する ビジネスモデルを備えた革新的技術（2020年）

【概要】

本調査では、従来の車両中心のビジネスモデルからデータ中心の収益モデルに移行する際に OEM が注力すべき主要なプラットフォームについてまとめています。具体的には、自動車業界の変化と OEM 戦略への影響、今後の CASE コンバージェンスのために OEM が注力すべき 4 つの主要プラットフォーム、業界が電動化へ舵を切り、自動運転レベル L4 と L5 を採用する流れに応じたシェアプラットフォームの進化、高度な自動運転に向けた開発が車載電子機器とソフトウェアに与える影響と増加するデータへの対処、4 つの主要プラットフォームに注力する OEM と開発者の特定などが含まれています。調査対象地域はグローバル、調査対象期間は 2019 年から 2025 年までです

【内容一覧】

エグゼクティブサマリー

調査の範囲と目的

定義

業界の概況

- 変化する自動車業界
- 変化に応じた業界の最適化
- 従来の開発を継続する OEM の課題
- CASE に向けたプラットフォーム主導のアプローチ

車両およびシェアプラットフォーム

- 将来の自動運転車両プラットフォーム
- モジュラーおよびスケートボードプラットフォーム
- 主要なプラットフォーム
- OEM の戦略：スケートボードプラットフォームの BEV

電子プラットフォーム

- E / E アーキテクチャの進化
- センサハードウェアの進化
- 自動運転レベル別センサデータフュージョンの役割
- EV パワーコンポーネント
- OEM E / E アーキテクチャ戦略
- EV バッテリーとモーター戦略

ソフトウェアプラットフォーム

- 自動運転向けの車載ソフトウェア
- ソフトウェアとハードウェアのデカップリング
- AI型ソフトウェアと従来型ソフトウェア
- 機械学習の役割
- 機械学習の実装
- 自動運転ソフトウェアプラットフォーム

クラウドおよびエッジコンピューティングプラットフォーム

- 自動運転車両向けのデータストレージとコンピューティング
- エッジタイプとクラウドタイプの比較
- クラウドエッジ計算モデル
- クラウドストレージと計算
- OEMクラウド戦略

CASE コンバージェンス

成長機会と企業への提言

結論

付録

"